

令和6年度 南湖小学校 学校評価(自己評価)

本校では、学校教育目標に『心豊かな人間性と たくましい実践力を 身につけた子どもの育成』を掲げ、「かしこく やさしく たくましく」を合言葉に知・徳・体のバランスの取れた児童の育成をめざして、学校長を中心に全職員一丸となって取り組んでいる。また、家庭や地域と連携した学校経営、昨年度から始まった小中一貫教育を意識した学校経営を進めている。

それらをもとに、昨今の教育課題も踏まえつつ、教職員・保護者・児童にアンケート調査を実施し、それをもとに令和6年度の学校評価を行った。

■回答日時 令和6年12/10(火)～12/18(水)

■評価の分野

ア、学校経営に関して イ、学習指導に関して ウ、生徒指導に関して

エ、学校の特色・課題に関して オ、小中一貫教育に関して

■回答数 R5 教職員：17 R6 教職員：14

保護者：163 保護者：150

児童：164 児童：145

■評価の観点 ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

※プラス評価(そう思う, だいたいそう思う), マイナス評価(あまりそう思わない, そう思わない)

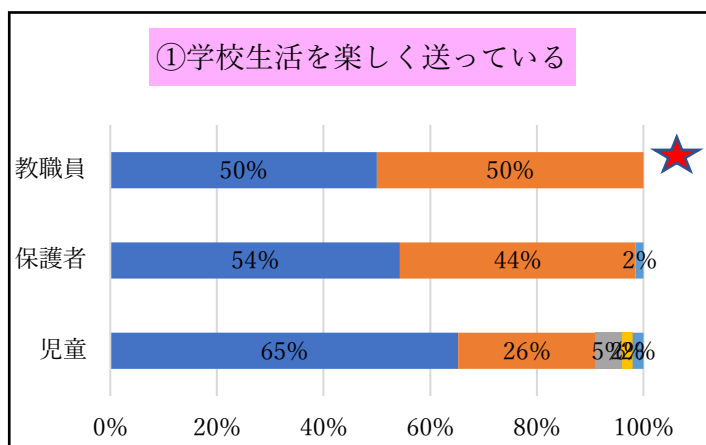
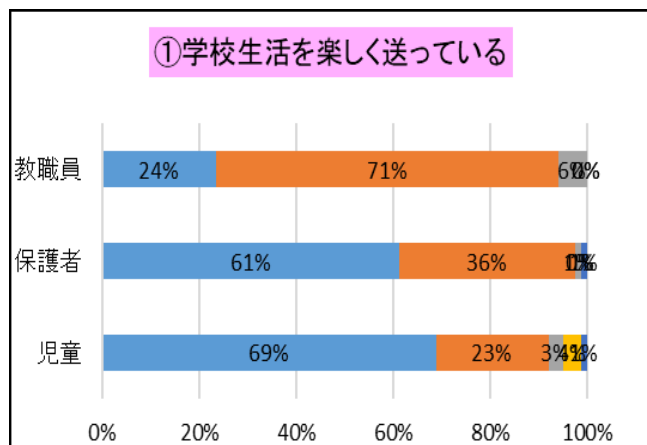
分野別の回答状況と考察・改善策

I 学校経営について

■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

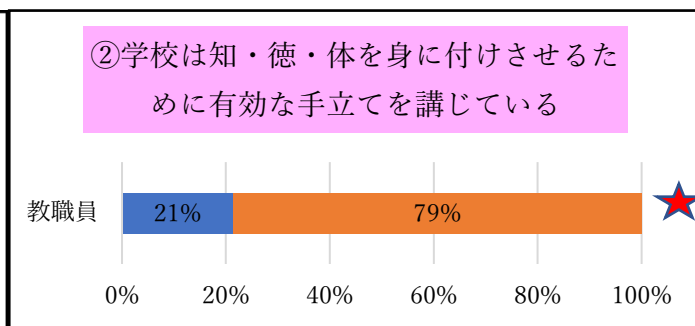
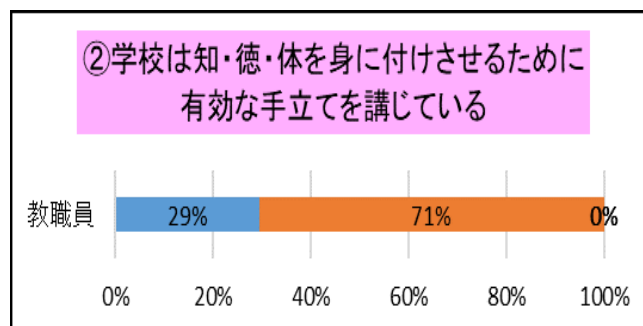
① 楽しい学校生活

R5 → R6



② 学校教育目標達成の取組

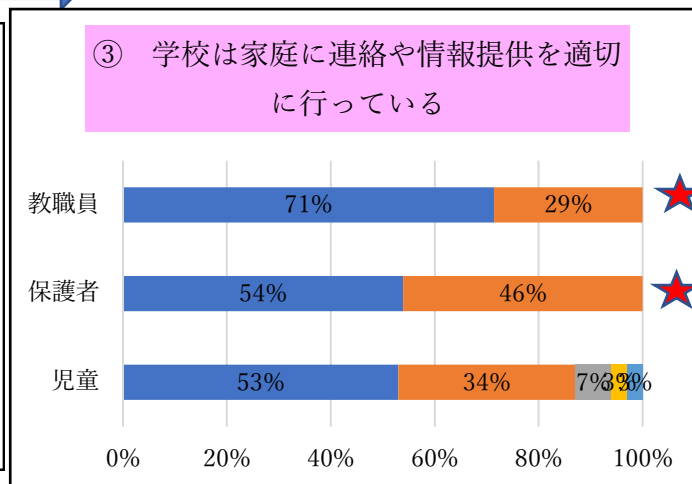
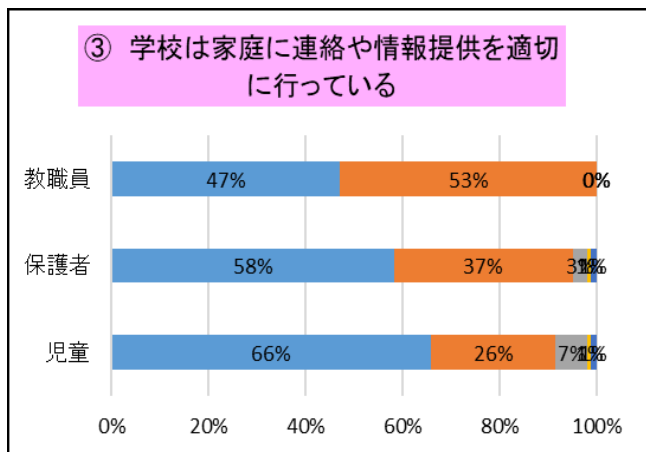
R5 → R6



② 家庭への連絡や情報提供

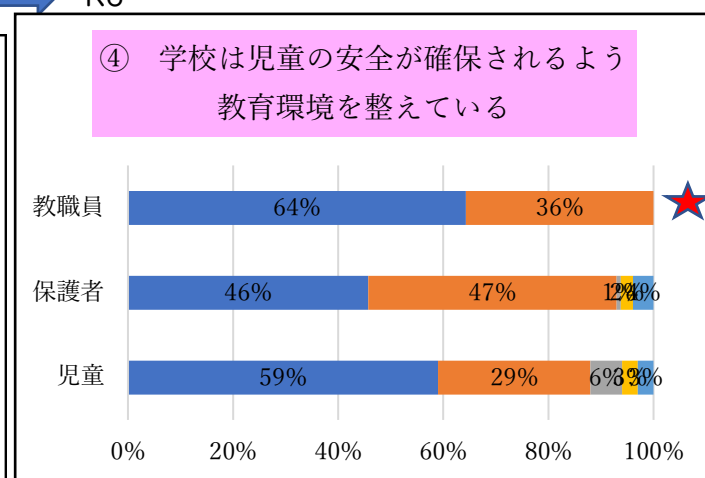
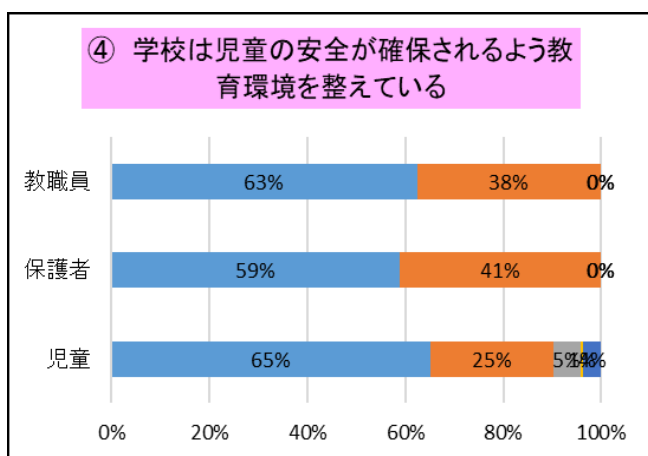
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

R5 → R6



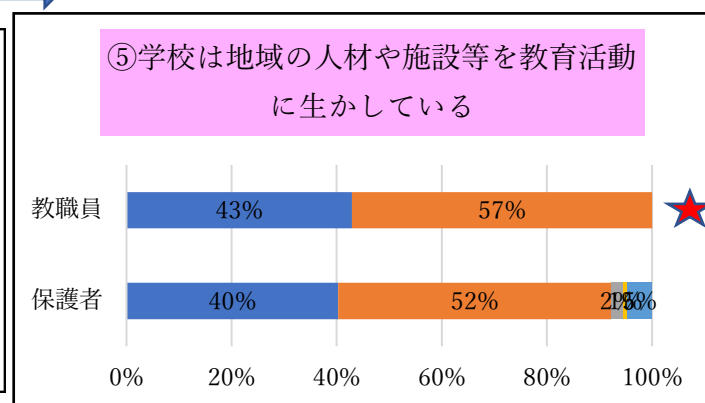
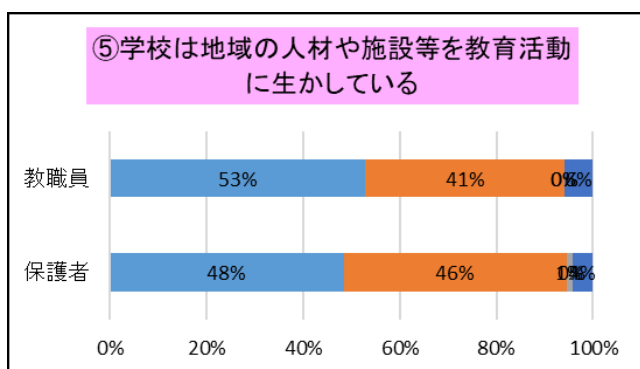
④ 安全な教育環境

R5 → R6



⑤ 地域人材の活用, 施設設備の整備

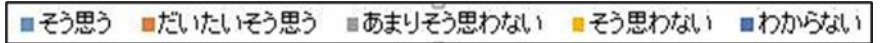
R5 → R6



考察

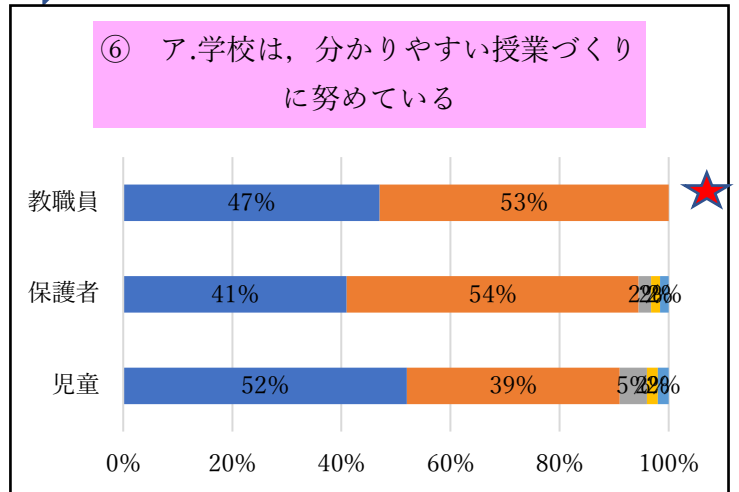
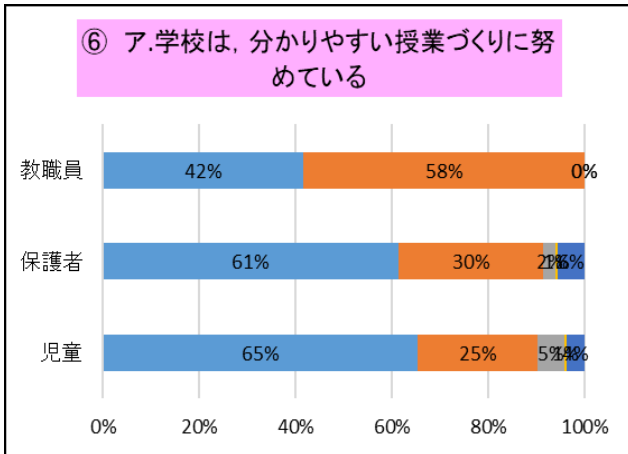
今年度も全ての項目で、三者の回答のプラス評価（肯定的評価）が88%以上と高く、引き続き学校教育目標や学校教育方針に基づいた学校経営がなされ、一定の成果を実感していることが分かる。特に教職員は、全ての項目で100%のプラス評価となっており、学校が郵便や電話、連絡帳、安心メール、HPとあらゆる手段で家庭への連絡や情報提供に努めてきたこと、安全点検を行い危険箇所をその都度改善してきたことが評価されていると考えられる。加えて、農業ボランティアや学習ボランティアなどの地域人材や市の文化財課、市の施設を積極的に活用し、地域と協働して充実した教育活動が実現していることも評価されたといえる。

II 学習指導

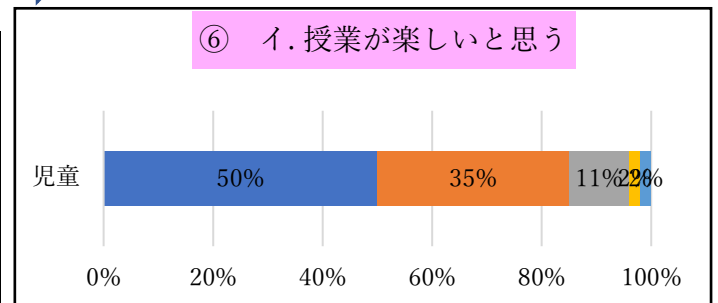
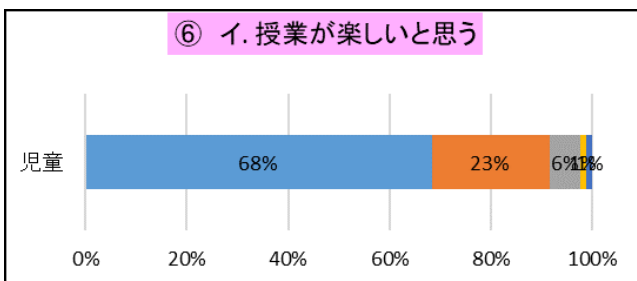


⑥ 分かりやすい・楽しい授業への取組

R5 → R6

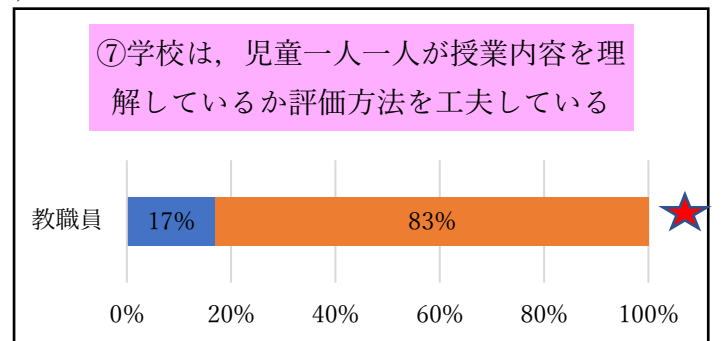
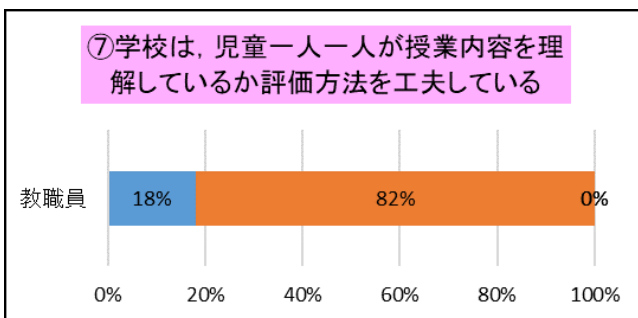


R5 → R6



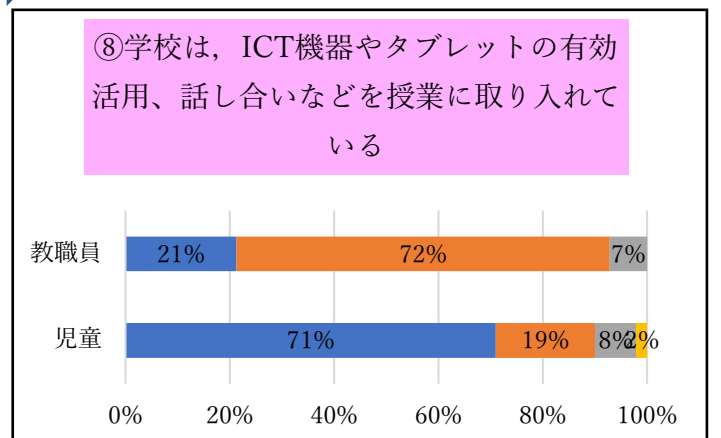
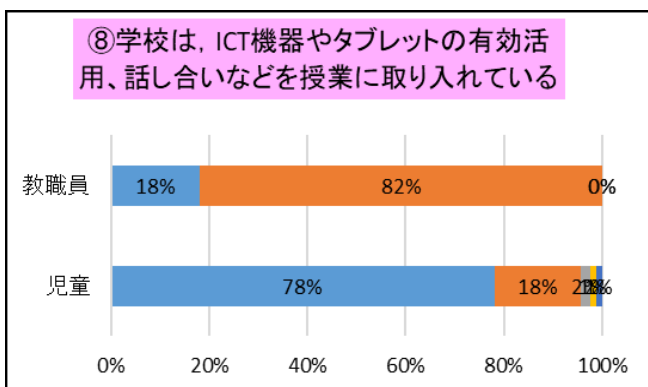
⑦ 学習評価

R5 → R6



⑧ ICT機器の活用、話し合い

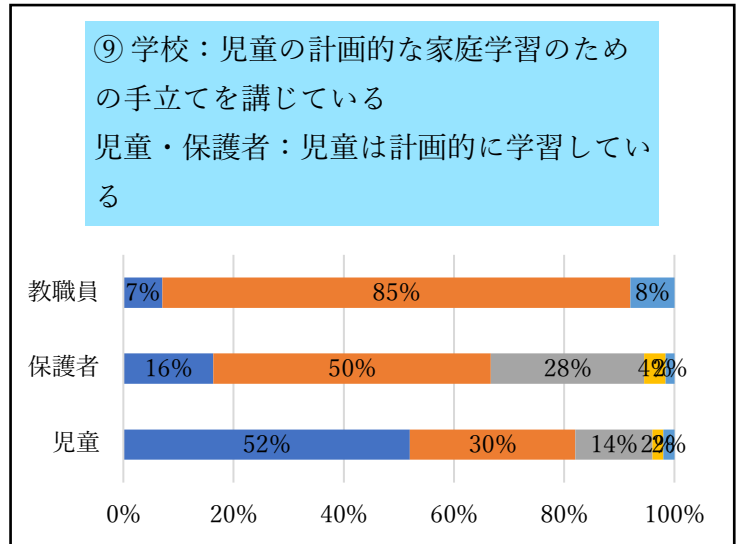
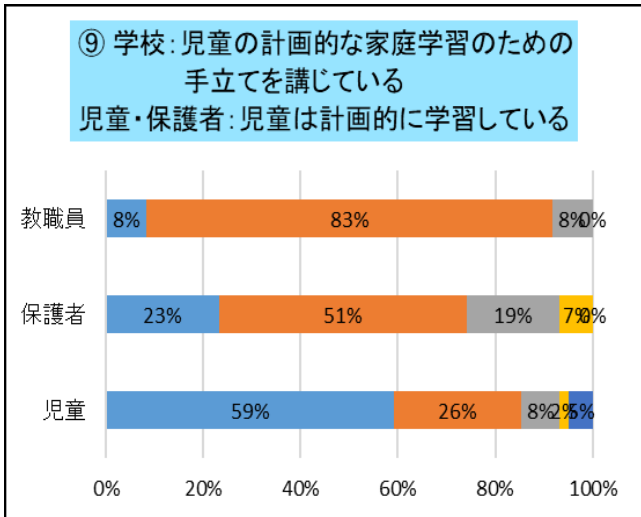
R5 → R6



⑨ 家庭学習

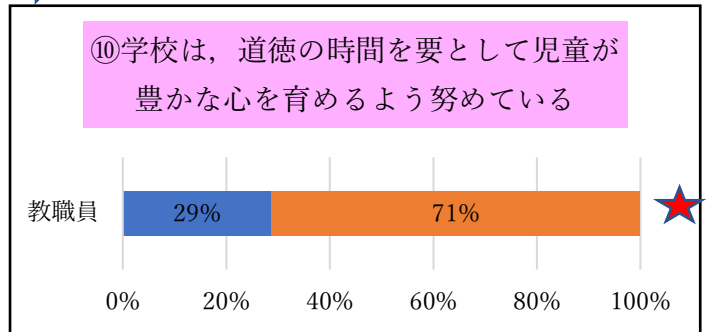
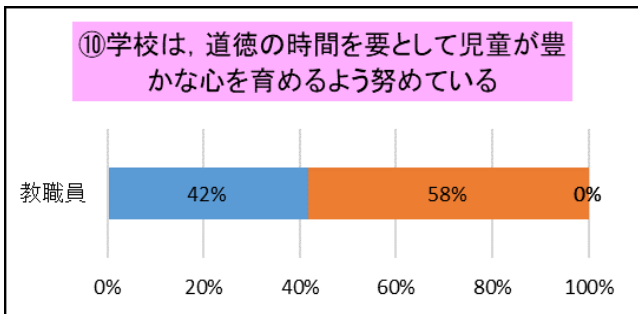
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

R5 → R6



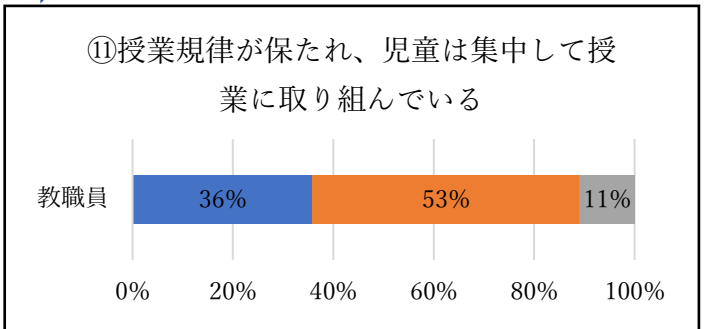
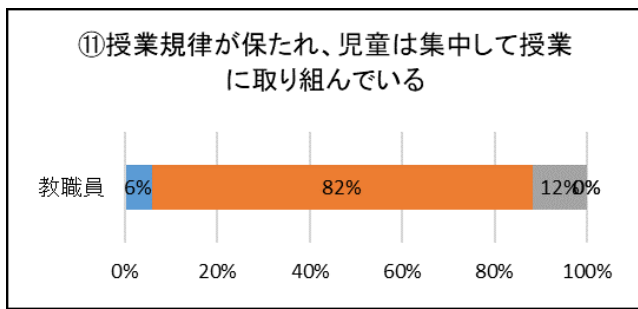
⑩ 豊かな心の育成

R5 → R6



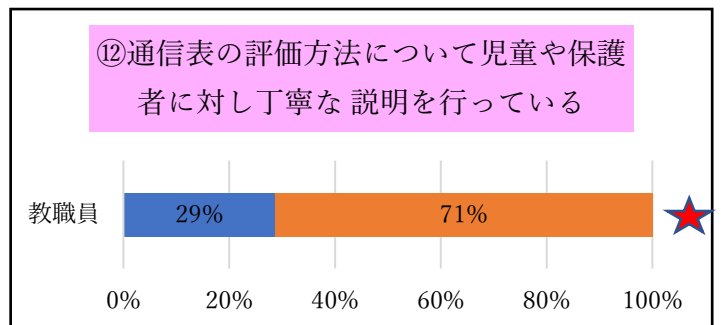
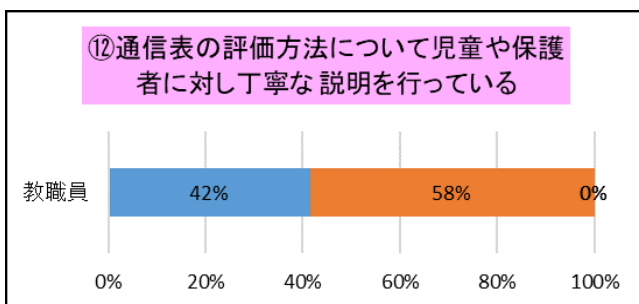
⑪ 学習規律

R5 → R6



⑫ 評価方法についての説明

R5 → R6



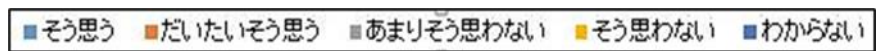
考察

⑥ア, ⑧については, 三者のプラス評価が90%以上を超えている。ICT を効果的に使い, わかりやすい授業を行っている成果だと考えられる。⑨の家庭学習については, 保護者・児童ともマイナス評価が高くなっている。家庭学習定着週間や自主学習の推進等, 学校からの働きかけを行っているが, 家庭での指導の難しさを感じている保護者の方が多いことが結果に表れていると考えられる。⑩の学習規律については, マイナス評価が昨年度並みの11%となっている。学習規律や授業への集中力を高めていくため, 今後さらに充実した授業づくりを行っていかなければならない。

改善策

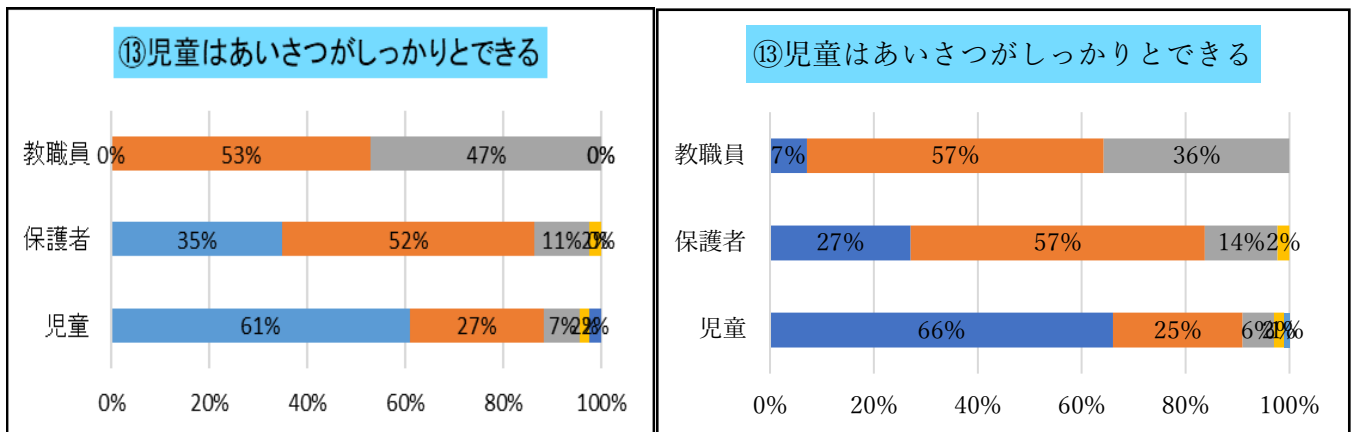
- ・家庭学習の方法や内容について保護者や児童に引き続き情報提供をしていくとともに, 保護者の個別の相談にも対応していく。
- ・児童がわかる・できるを実感できるような授業づくりを今後も校内研究会等で職員同士が学び会い, 個に応じた指導・個別最適な学びの実践を重ねていく。

Ⅲ 生徒指導



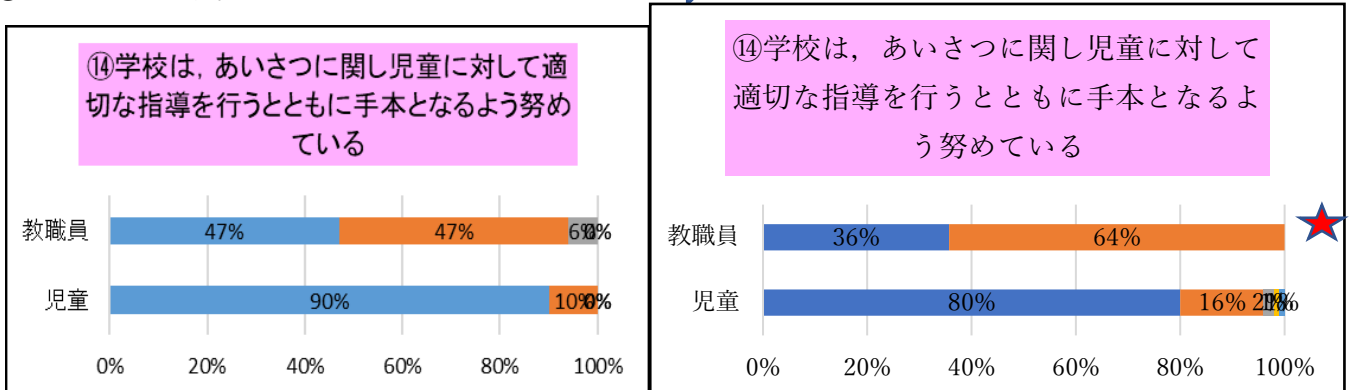
⑬ あいさつ

R5 → R6



⑭ あいさつの指導

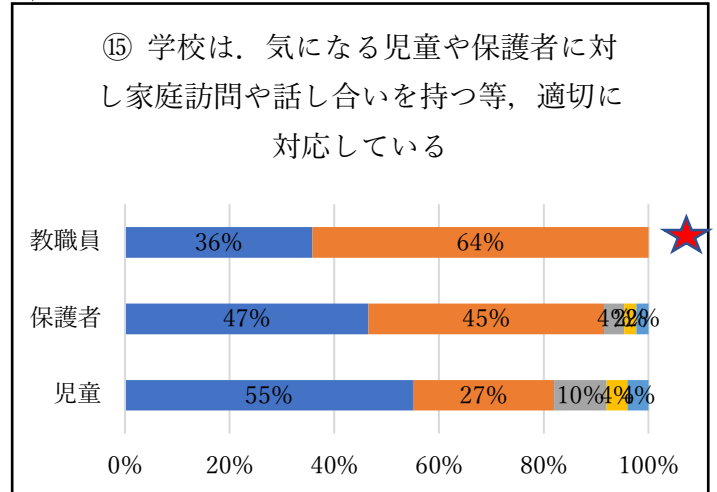
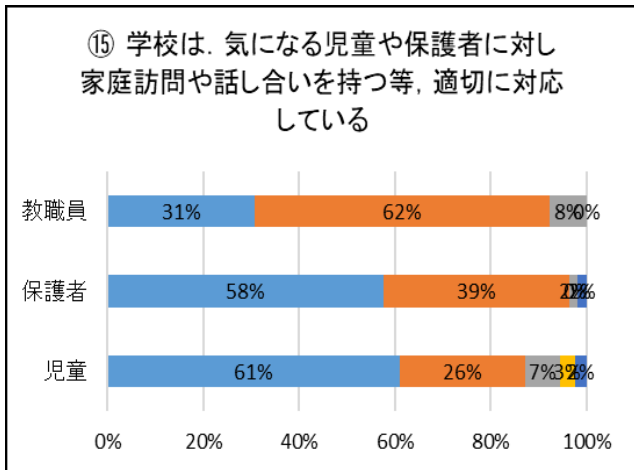
R5 → R6



⑮ 相談・支援

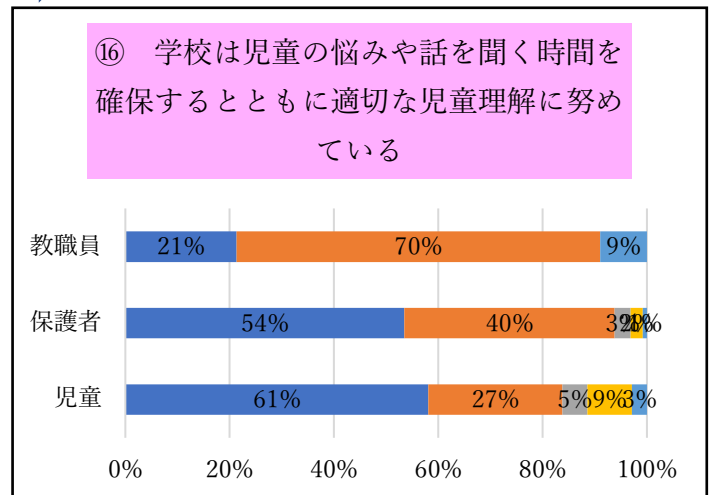
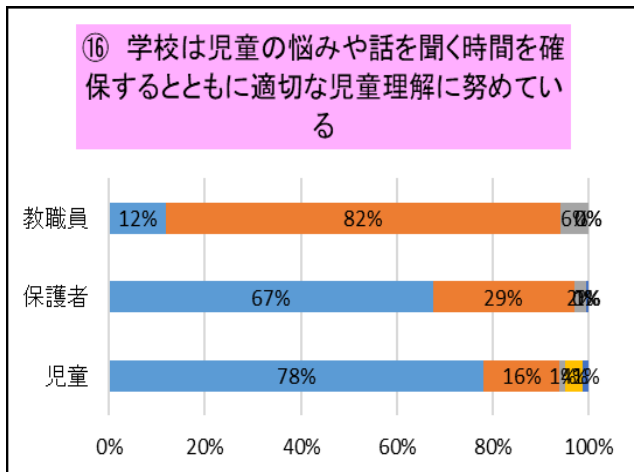
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

R5 → R6



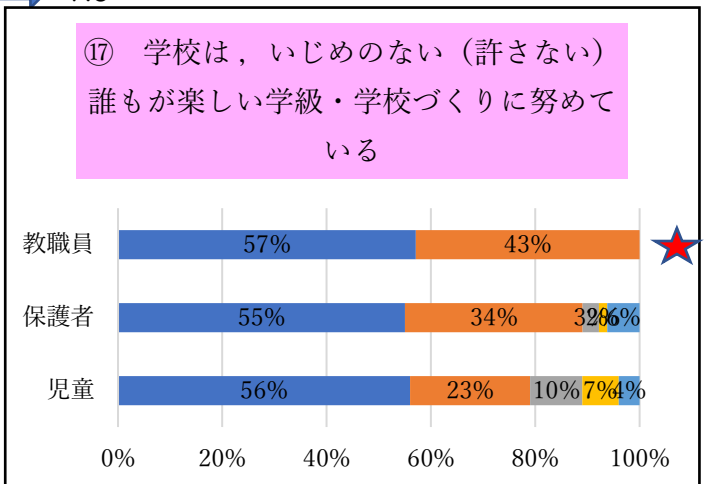
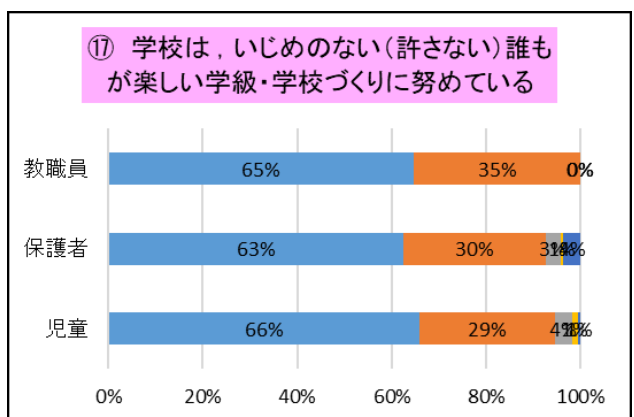
⑯ 児童理解

R5 → R6



⑰ いじめのない楽しい学級づくり

R5 → R6



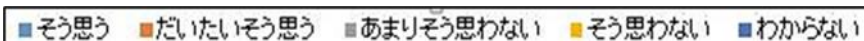
考察

児童は、「あいさつができる」のプラス評価が90%以上と高いのに対し、教職員は64%と低い数値となっている。その理由として教職員からは、「児童の声が小さい」「こちらから声をかけないとあいさつがない」などの意見が挙げられている。これから社会に出ていく子どもたちには、あいさつは生きていくうえで必要な要素であるだけに、学校でも引き続き気持ちのよいあいさつを行っていくとともに、家庭・地域とも連携し、あいさつを行っていく必要がある。⑮相談・支援と⑯児童理解については、保護者・教職員のプラスの評価が90%以上と高いのに対して、児童の回答は、マイナス評価が14%となっている。今後も今以上に子どもたちと対話をし、交流を深めていかなければならない。⑰のいじめのない学級づくりでは、児童の17%がマイナス評価となっており、教職員・保護者とは差が大きくなっている。今後も児童の様子を観察し、言葉に耳を傾け、すぐに対応していく必要がある。

改善策

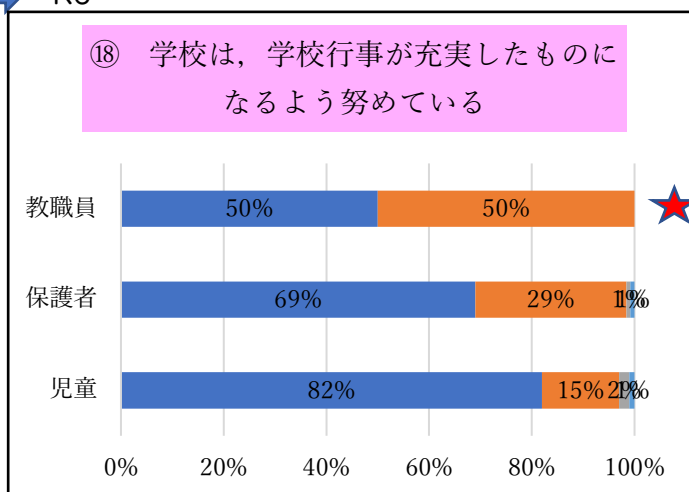
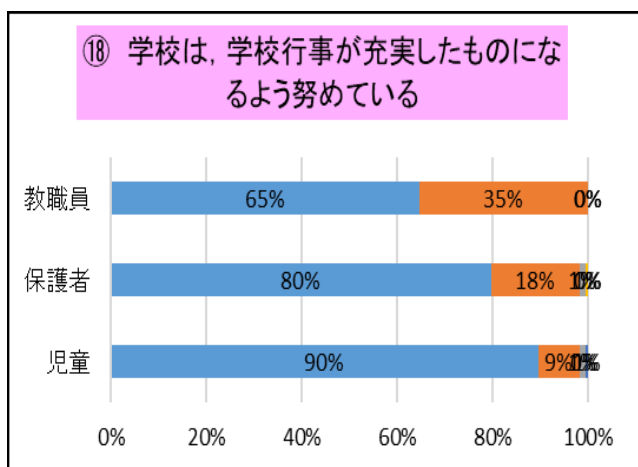
- ・教職員が見本となってあいさつをしていくとともに、児童会のあいさつ運動や他団体とのあいさつ運動を積極的に押し進めていく。
- ・いじめをゆるさない学級づくりに引き続き取り組むとともに、子どもたちの小さい変化に気づくようにアンテナを高くしていく。

IV 特色・今日的課題



⑱ 学校行事の充実

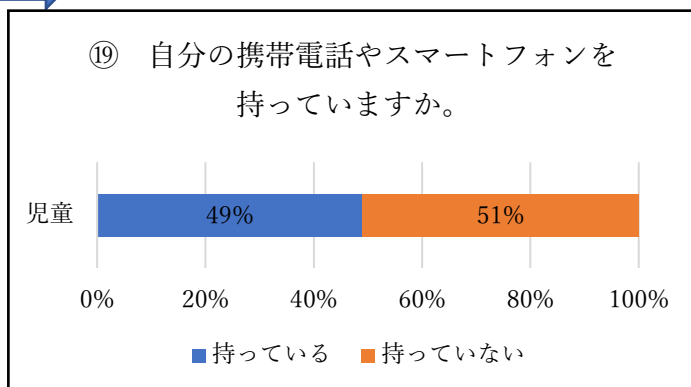
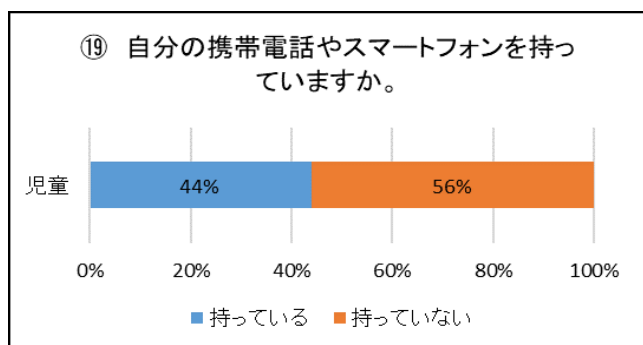
R5 → R6



⑲ 携帯電話・スマートフォン

・所持率

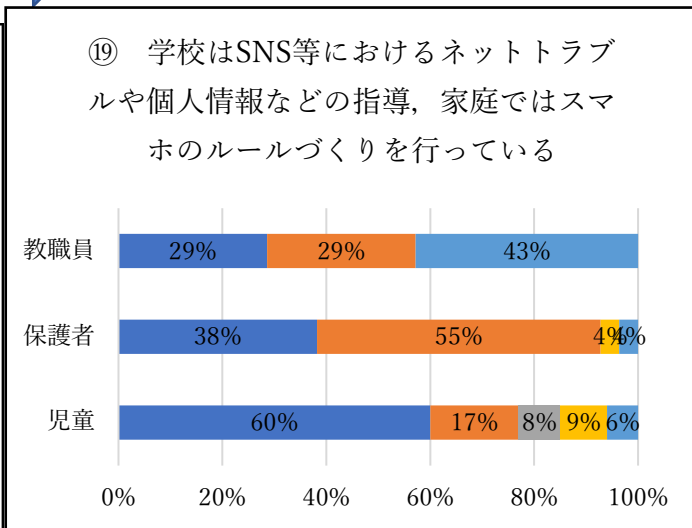
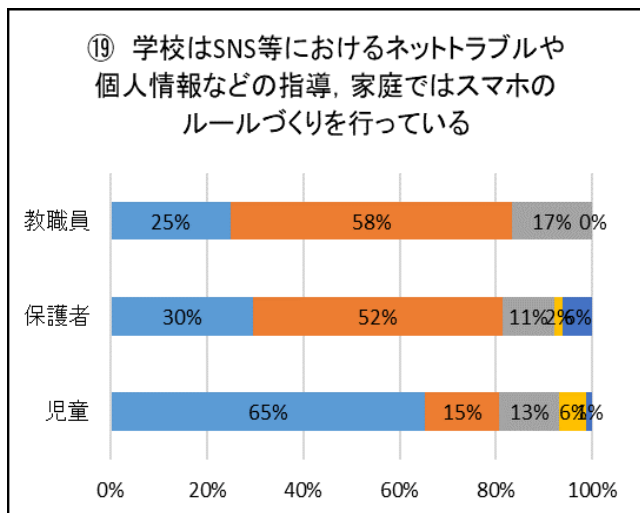
R5 → R6



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

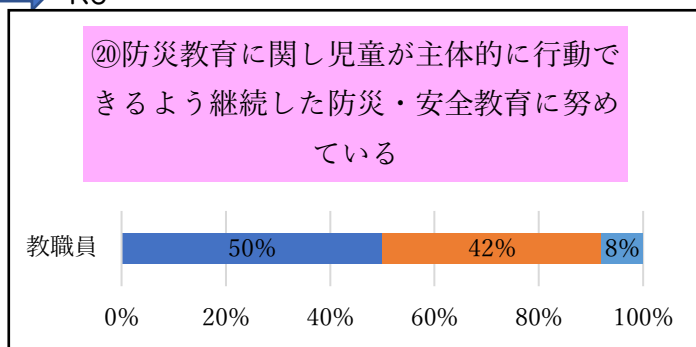
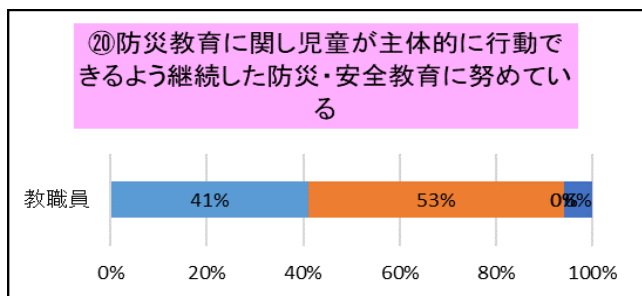
・ネット利用指導・家庭内のルールづくり

R5 → R6



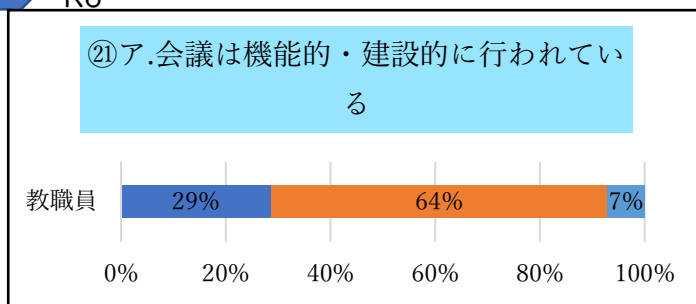
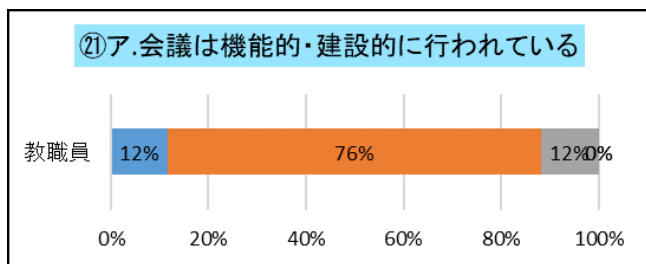
⑳ 防災・安全教育

R5 → R6

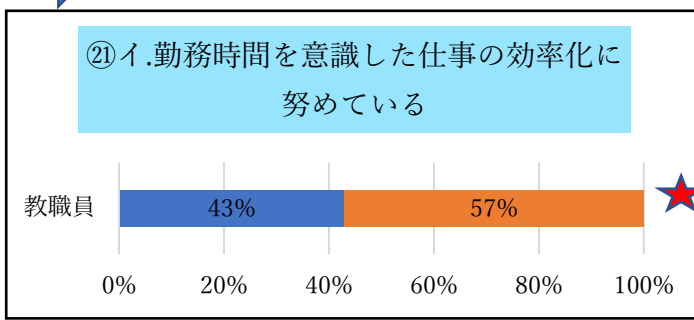
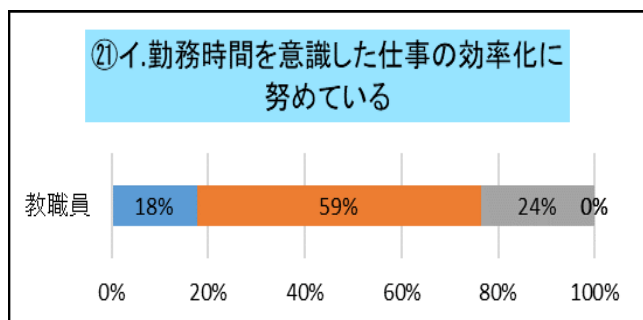


㉑ 教職員の働き方(業務改善)

R5 → R6

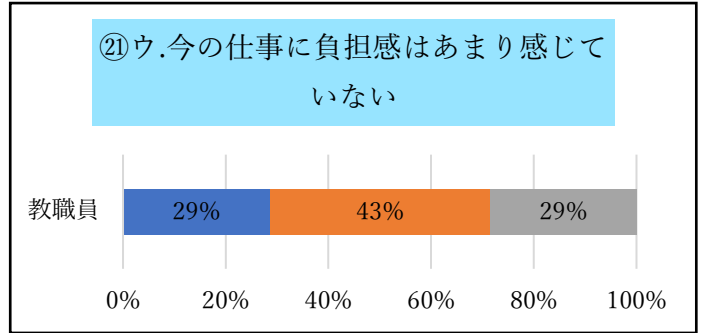
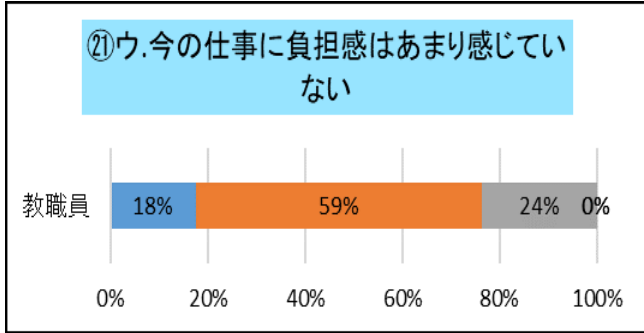


R5 → R6



■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

R5 → R6



考察

⑱の学校行事の充実は、昨年と同様、三者ともプラスの評価が90%以上と高い数値となっている。児童が主体的に参加する運動会や報徳祭への取り組みの成果だと考える。⑲の携帯電話・スマートフォンの所持率が高くなってきているので、学校での SNS の指導を継続していくとともに、家庭でのルール作りをしっかりと行っていかなければならない。⑳の教職員の業務改善では、会議や仕事の効率化が進んでいるが、負担感はさらに上がっているのので、さらに改善できるところは改善し、自身で勤務時間を意識した働き方を進めていかなくてはならない。

改善策

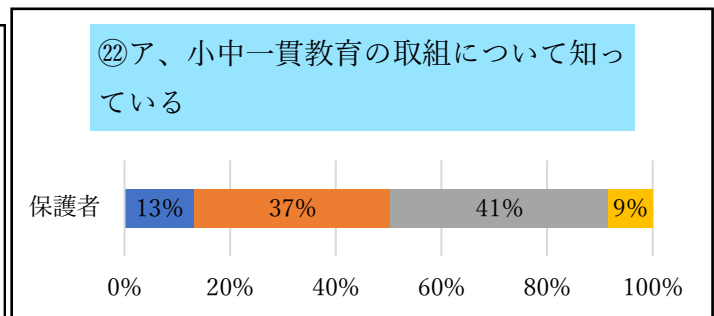
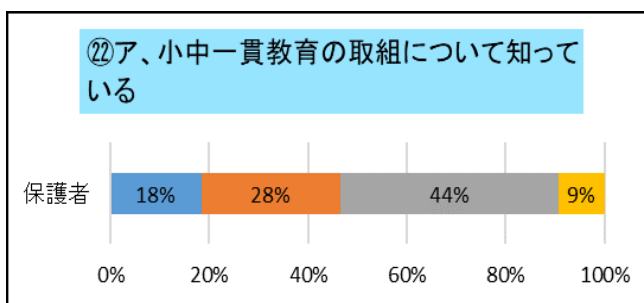
- ・ スマホ・携帯教室等を今後も行い、家庭でのルール作りを推進していく。
- ・ 校務をさらに効率化し、勤務時間・健康管理を意識した働き方を進めていく。

V 小中一貫について

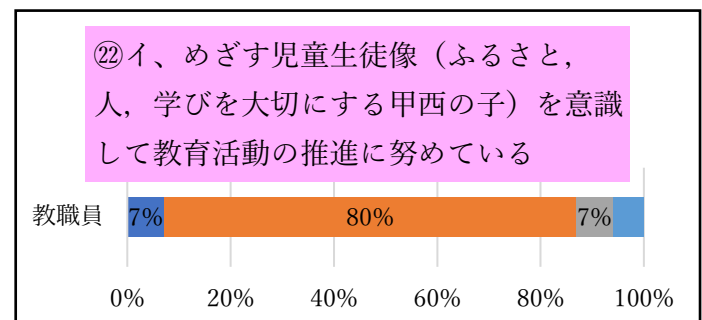
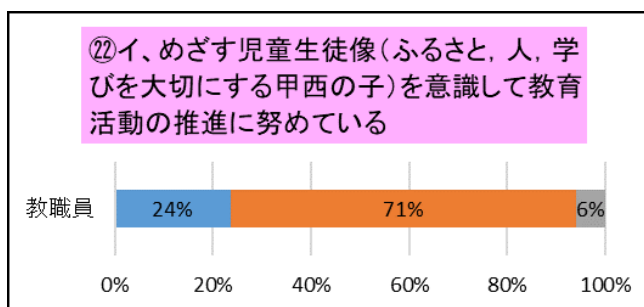
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

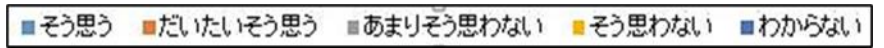
㉑ 小中教育

R5 → R6

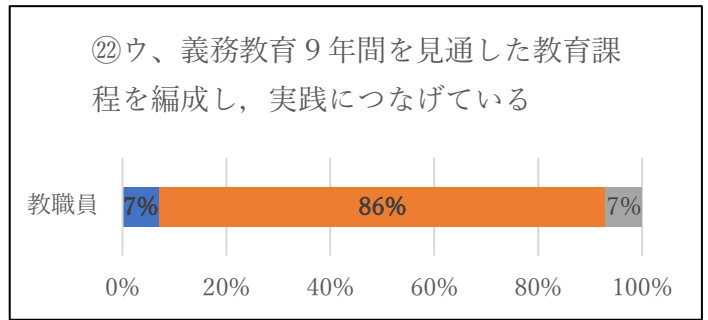
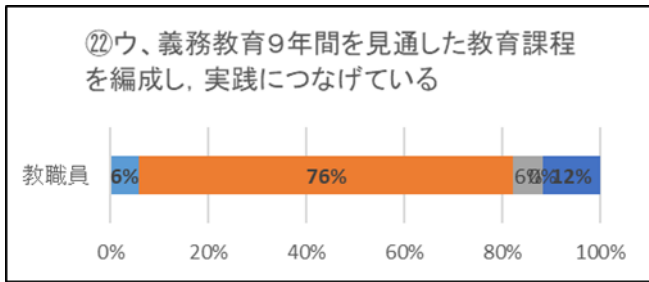


R5 → R6

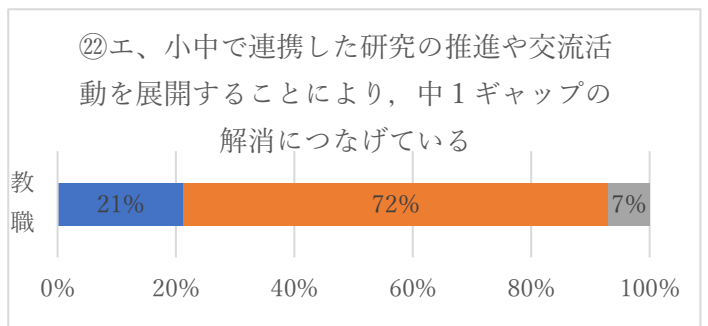
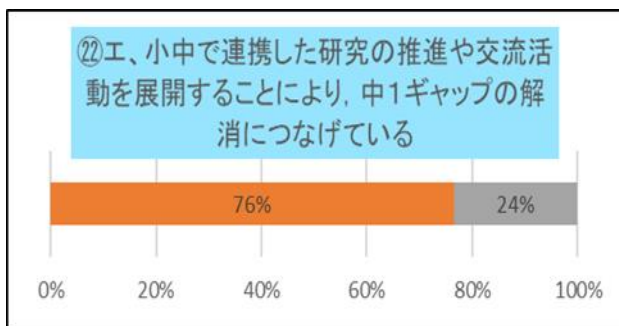




R5 → R6



R5 → R6



考察

小中一貫教育の保護者の方の認知は若干上がったが、まだ50%と数値が低いままであるので、今後もおたよりやPTA総会、HPなどで発信していく必要がある。職員が小中連携の研究会を重ね、中1ギャップ解消に向け取り組んできたので、マイナス評価が7%となった。今後もさらに研究を深め、プラス評価を100%に近づけていく。

改善策

- ・あらゆる機会に保護者や地域の方に情報を発信していくようにする。
- ・甲西中学校区の4校で研究を深め、中1ギャップ解消を深め、さらなる連携ができるようにしていく。

まとめ（成果と課題）

I 学校経営について	
成 果	課 題
学校教育目標をもとにした学校経営 家庭への連絡や情報提供 安全な教育環境 地域人材や施設の活用	
II 学習指導について	
成 果	課 題
分かりやすい・楽しい授業への取組 ICT 機器の活用・協働的な学習 豊かな心の育成	計画的な家庭学習 児童が集中して学習できる授業づくり
III 生徒指導について	
成 果	課 題
相談・支援の充実 児童理解の深化	児童のあいさつの定着 いじめのない楽しい学校づくり
IV 学校の特色・課題について	
成 果	課 題
学校行事の充実 教職員の業務改善	ネット利用指導・家庭内のルールづくり 教職員の仕事への負担感
V 小中一貫教育について	
成 果	課 題
研究の推進や交流活動の推進 小中一貫を意識した教育課程の実践	小中一貫教育に対する保護者の認知